



日本自動車会議所は11月29日、東京都港区の日本自動車会館「くるまプラザ」会議室で第296回会員研修会を開催しました。リモートも併用し、全国自動車会議所など各地から計約80名に参加いただきました。今回は「サーキュラーエコノミー（循環経済）への招待～新しい資本主義経済の形～」をテーマに、講師には東海大学副学長で、公益財団法人自動車リサイクル促進センター理事長の細田衛士氏をお迎えしました。



細田 衛士氏

サーキュラーエコノミーは廃プラスチック、食品ロ

ス、地球温暖化など多くの問題が相互に絡み合い、資源制約と環境制約が強まる時代において、資源の高度な循環利用を促す経済を指します。

講演では、自動車リサイクルなど先進事例を紹介しつつ、「国内外でサーキュラーエコノミーの実現は不可欠」と説明。その実現のためには「同業種、異業種がそれぞれ水平的、垂直的につながる事が重要」と日本でも産官学さまざまな主体が連携するパートナーシップを積極的に進めるべきだと強調しました。

サーキュラーエコノミーを構築するには、カーボンニュートラル（温室効果ガス排出実質ゼロ）は前提条件とも指摘。日本では2030年までに温室効果ガスを2013年比46%削減する中間目標を掲げており、「大変厳しいものの、この条件の下で2050年にカーボンニュートラルを目指さなければならない」と主張しました。

そのためには、「国、自治体、企業、NGOなどが連携協力・協働して、知識と知恵をつむぎ合わせる事がどうしても必要になる」とし、カーボンニュートラルに取り組む中で、サーキュラーエコノミーのロードマップを作成・実行する必要性を訴えました。

## 「ナスバギャラリー IN 東京」

### 日本自動車会館で今年度も開催

#### 多くの方が展示作品に魅了される

交通事故により重い障がいを負った方々や保護者を失った子どもたち（交通遺児）の創作作品を展示する「ナスバギャラリー IN 東京」が今年も日本自動車会館（東京・港区芝大門）1階ロビーで開催され、11月27日～12月1日の5日間で入館団体・企業の職員や来場者など約520人が鑑賞しました。ナスバギャラリーは、独立行政法人自動車事故対策機構（NASVA：ナスバ）と当会議所の共催として2019年度から開催されており、今回で5回目。重度障がいを負った方々が創作した切り絵や水彩画などの作品をはじめ、書道コンテスト入賞作品など計34点が展示されました。

作品はロビーの壁面に展示。館内を通行する職員などが立ち止まって展示作品やその説明文を熱心に見る姿も見られ、説明文を読んで涙ぐむ人も。「一人ひとりとても感性豊かで素晴らしい」、「(書道の)『笑』の字がとても大好き、高校生とは思えないほど上手です」などの感想も聞かれ、作品の持つ表現力の高さがうかがえました。



ご家族と展示作品をご覧になる作者の関根里絵さん（写真左）。関根さんの後ろに立って鑑賞するのはナスバの中村晃一郎理事長

開催期間中には作者ご本人やご家族も来場されたほか、ナスバの中村晃一郎理事長、ナスバのマスコットキャラクター「ナスバちゃん」も会場を訪れました。中村理事長は「交通事故の被害者は、家族や体の自由などいろいろなものを喪失しています。喪失から立ち上がっているいろいろなことを創造しており、作品から勇気や元気をもらうことができます。また、作品やその背景などを知ることにより、交通事故を自分のことのように“自分化”してドライバーの皆さんに運転していただく。被害者支援と事故防止という、この両方の意義がナスバギャラリーにはあると思っています」と話し、ナスバギャラリーが悲惨な交通事故をなくしていく重要な取り組みの一つであるとの認識を示しました。

## 日本自動車会館で 「ユーザーの生の声」をパネル展示

### ユーザー直筆のパネル90枚を紹介

自動車税制改革フォーラム 1階ホールで1月12日まで

当会議所や日本自動車連盟（JAF）など自動車関係21団体で構成する自動車税制改革フォーラムは、「クルマの税金」に対する全国の自動車ユーザーからの「声」を集める活動を今年も展開し、1,113人から貴重なご意見などをいただきました。このうち実際にユーザーに書いていただいた実物のパネル90枚を、東京・港区の日本自動車会館1階エントランスホールで11月15日から展示しており、多くの来場者などにご覧いただいています。展示は来年（2024年）1月12日まで行われる予定です。

2017年から実施している「ユーザーの声を集める活動」は、新型コロナウイルス感染症防止のため一時中断していましたが、昨年、3年ぶりに再開し、全国で



90枚の直筆パネルを展示



8地域ごとにパネルを展示

展開しました。今年も全都道府県で実施し、これまでに8,946人もユーザーからのご意見などが集まっています。

今年いただいたご意見のうち、90人分のパネルを北海道、東北、関東、中部、関西、中国、四国、九州の全国8地域別に紹介しており、自動車ユーザーがいかにか高い税金を負担に感じているのか、高いガソリン代に苦しんでいるのかなどの切実な現状を伺い知ることができます。集まった「声」は、当会議所やJAFをはじめとするフォーラム団体の要望書などに反映され、国会議員や政府、関係省庁、自治体などへ要望する際に活用されています。

## 自工会「自動車図書館」が 機械振興協会「BICライブラリ」に統合

### 「くるまコレクション」のコーナー新設

引き続き、無料で閲覧可能に

日本自動車工業会が運営していた「自動車図書館」が、11月1日から機械振興協会の「BICライブラリ」（旧「機械工業図書館」）と統合しました。自動車図書館があった日本自動車会館から1kmほど離れたBICライブラリの一角には「くるまコレクション」コーナーが設けられ、これまで同様に蔵書類が閲覧できるようになりました。

自動車図書館は2002年から自工会が運営しており、2004年の日本自動車会館開設に伴い同会館1階に移転されました。国内外の自動車に関する約1万2,000冊の文献や400本の映像資料等をはじめ蔵書等約4万点を所蔵する国内でもユニークな自動車専門図書館として自動車ユーザー等に愛されていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で2020年から長期にわたり休館していました。

BICライブラリは、機械振興協会の設立以来、市場情報や経営情報などを提供する機械産業の専門図書館



館内④「BICライブラリ」  
のまコレクション  
⑤新設された「ま

として多くの利用者に活用されてきました。2011年5月に「BIC（ビジネス・インフォメーション・commons）ライブラリ」としてリニューアルオープンし、図書館機能に加え、機械産業を中心とした各種ビジネス情報を提供しています。

#### ■BICライブラリ

〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8

機械振興会館地下1階

<http://www.jspmi.or.jp/biclibrary/>

・開館時間：月～金曜日 10：00～17：00

（16：30入館受付終了）

・休館日：土曜・日曜・祝祭日

毎月の最終金曜日

8月24日（機械振興協会創立記念日）

※年末年始、臨時休館、開館日・開館時間の変更については、機械振興協会ホームページの「お知らせ」にてご確認ください。





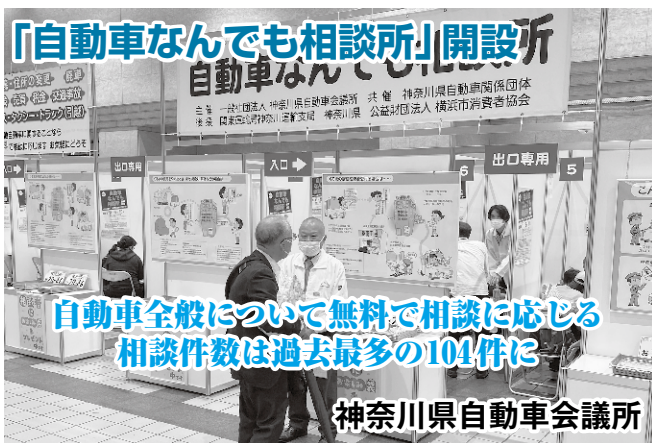
自動車産業に功績を残した先人を顕彰する「東京自動車三十年（みそじ）会記念碑」法要が11月22日、東京・台東区上野の不忍池辨天堂で営まれました。今年には三十年会結成70周年に当たり、記念碑に名を刻む先駆者の子孫・業界関係者ら約30人が参列しました。

法要は北岡興真・東叡山寛永寺福聚院住職が導師を務める読経に続き、参列者が厳かに焼香し滞りなく終了しました。その後、実行委員長の中川雅治・東京都自動車会議所会長が「わが国の自動車関連産業の勃興期を担われた先達の偉業を忍び、これからの皆さまの行く末に思いを馳せる機会にさせていただくことは誠に意義深い」と挨拶。さらに結成当時を振り返り「外国

車ばかりが目についたが、今では日本車が世界を席巻しています。これは先達の努力のたまもの」と話しました。

続いて前世話人代表の中谷良平・安全自動車相談役が「三十年会は70年を迎えることができました。古稀でめでたいことです。この間、法要を続けられてきたことに感謝しています」と謝意を示しました。その上で、地球温暖化を抑制するための脱炭素化の動きを踏まえ、「自動車業界は今、EV化が言われており、(混沌とした)カオス状態にあります。いずれ集約されることになるでしょうが、かなりの時間がかかるでしょう」と見通しを示しました。

東京自動車三十年会は、1953年に自動車関連業界の親睦団体として発足。その時点で自動車関連事業に30年以上携わってきた人を会員としたことから、この名前がつけました。また発足当初のメンバー約100人を顕彰する記念碑は1975年に、不忍池辨天堂境内に建立されました。今年には三十年会結成70周年に当たり、石碑のクリーニングと彫刻文字の色入れを行いました。この日は空が晴れ渡った小春日和の一日となり、陽光を浴びて輝く石碑を前に、参列者は静かに手を合わせていました。〔東京都自動車会議所〕



神奈川県自動車会議所は11月9日、10日の両日、横浜駅東口の新都市プラザで「自動車なんでも相談所」を開設し、自動車全般について無料で相談に応じる自動車なんでも相談を実施しました。この「自動車なんでも相談所」は、関東運輸局神奈川運輸支局、神奈川県、横浜市消費者協会の後援を受け、1981年（昭和56年）から継続して実施しているもので、今回で46回目となり、関東運輸局神奈川運輸支局、神奈川県くらし安全防災局、神奈川県自動車税管理事務所をはじめ関係団体から派遣された相談員（延べ43名）と弁護士（2日目の午後のみ）が対応にあたりました。

今年の相談件数は、過去最多の104件（昨年は86件）でした。内訳は、登録手続き関係が32件、車検・整備関係が13件、道路交通法が15件、車の売買関係が14件、自動車税関係が7件、事故・保険関係が4件、弁護士が3件、輸送関係が10件、その他が6件となり、登録手続き、図柄ナンバーに関する問い合わせ及び自動車の購入についての相談が目立ちました。

〔神奈川県自動車会議所〕



静岡県自動車会議所は11月14日、静岡市葵区の青葉通り交差点などの街頭において、2024年度税制改正に向けて要望活動を行ないました。活動は、静岡県自動

車会議所、日本自動車連盟（JAF）静岡支部、日本自動車販売店協会静岡県支部、全日本自動車産業労働組合総連合静岡地方協議会（自動車総連）から22名が参加し、街ゆく皆さんに「みんなで考えよう！ クルマの税金」と書かれた自動車税制改革フォーラムのチラシ700部を配布し、自動車諸税を知っていただくこと

もに、自動車ユーザーの負担軽減と公平・公正な税制の実現を訴えました。

チラシを受け取られた方からは、「自動車にかかる税金は高いから安くしてほしい」などの声が寄せられ、また、税負担軽減に向け、「頑張ってください。」と激励をいただきました。〔静岡県自動車会議所〕

## 『自動車年鑑』2023～2024年版発売

### 新刊のご案内

## より使いやすい体裁で発行

## 完全デジタル化・DVD1枚に収録



日本自動車会議所と日刊自動車新聞社との共編による『自動車年鑑』2023～2024年版が、11月30日に発売されました。創刊から90年以上の歴史を誇る本書が、昨年から完全デジタル化され、より使いやすい体裁となって刊行されましたのでご案内いたします。

本書は、クルマと自動車産業に関するあらゆるデータや情報、動向などを網羅しています。自動車の生産や販売、保有に関するさまざまな統計データをはじめ、自動車メーカーを中心とした国内外の動向、世界各国のレポート、新型車やニューリーダー情報を収録。最新刊はオールカラー88ページの冊子に加え、統計・資料、108団体7,700社以上の連絡先や代表者名を収録した名簿「The List」など全820ページをDVD1枚に収録しました。

巻頭特集では、デジタルトランスフォーメーション（DX）に取り組むサプライヤーの今を伝えているほか、大きく変化する自動車整備の現在を紹介しています。また、2022年～2023年の新型車・特別仕様車などを網羅した「ニューモデル」、総勢約200名におよぶ主要団体・企業のトップらを紹介する「ザ・ニューリーダーズ」、国内外の業界トピックを時系列で取り上げている「自動車産業日誌」などもオールカラーで掲載。同日誌には、世界初の蒸気自動車がつくられた1869年（明治6年）からの自動車産業の歴史年表も収録されています。

DVD1枚に収録したことにより、さらなる利便性の高さも魅力となっている『自動車年鑑』は、自動車ビジネスに携わる方々や研究者、行政関係者などの必携ツールとして定評があり、是非、お買い求めをご検討ください。

### 【自動車年鑑の掲載項目】

＜本編＞

◎特集

「加速するサプライヤーのDX」

「変わる自動車整備」

◎2022～2023 ニューモデル

◎ザ・ニューリーダーズ

◎自動車産業日誌

◎日本と主要国の自動車産業

◎国内自動車販売・サービス

◎自動車産業と行政

＜統計・資料編＞

◎日本メーカーの主要経営指標一覧

◎役員・経営陣一覧

◎国内主要事業所、車種別最終組立工場一覧

◎海外主要拠点、出資会社

◎新車販売台数推移

◎メーカー別中古車登録台数

◎国産車ディーラーの概要

◎主要国の自動車生産台数

◎自動車部品出荷金額の推移

◎自動車関係諸税率の概要 など

【お申込み等】

体裁 B5判冊子88ページ+DVD1枚820ページ

（ケース入り、分売不可）

定価 22,000円（税込み） 送料無料

※お申し込みはホームページまたは直接お電話にて承っております。

<https://www.aba-j.or.jp/publication/>

TEL.03-3578-3880（日本自動車会議所）